

保育おおさか

平成19年7月1日 第383号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
(大阪府保育協議会)

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

認定こども園のその後

90件を超える施設が認定

大阪府では、昨年10月、条例等により認定こども園の施設の職員配置・資格や設備等の認定基準を制定しました。それに引き続き、昨年11月末から12月にかけて、保育団体の皆さんに、制度の内容を

理解していただくために、各ブロックでの説明会を持ち、全体で300を越える保育所から参加がありました。

各保育所におかれては、制度の内容等を踏まえ、保育所の今後のあり方等を考えておられることと思われま

す。認定状況については、今年に入り、全国で認定こども園が順次誕生しており、4月1日現在で、90件を超える施設が認定を受けているよう

です。現在も、本府において、各種施設からの認定相談を受けており、庁内関係

の入所の場合も兄弟数に算定することとされ、幼保の枠を越えた拡大がなされています。今後とも、国、市町村や事業者の方々と緊密な連携を図りながら、情報収集・提供や意見交換等を重ねてまいります。

(大阪府健康福祉部
子育て支援課 総括
課長補佐 新生隆信)



私は、少年の頃から鉄道が大好きでした。百貨店へ勤めていた父

は、土日多忙で、変わりに祖母が色々な所へ連れて行ってくれた記憶があります。

列車の窓から流れていく景色は、時間の経過とともにその色合いも変わり、街から田舎の風景そして、都会の風景へと移り変わってゆきます。

特に夜行列車に初めて乗った時の記憶は鮮明で、町の明かりや月明かりの中からおぼろげに見える海や山の景色に心を躍らせたものです。

大人になった今も、家族で旅行をする時は、子どもを差し置いて、窓際の席へ自然と座ってしまいうので、妻からは、「いつまでも子どもみたいですね」とよく笑われます。通路へ出やすい「通路側」の座席を好む人と景色を眺められる「窓側」を好む人、色々だと思いますが、さて、皆さんは、どちらを好みますか。

防災キャラバン事業における防災教育(仮称)の実施

大阪府は、平成18年度から平成20年度までの3カ年を重点取組期間と位置付け、「防災キャラバン事業」を推進し、事業の一環として、保育所や幼稚園を対象とした「防災教育(仮称)」に取り組むこととしています。

「防災教育(仮称)」の内容例

ケース1

保育所・幼稚園の防災訓練等を、市町村(消防本部)や関係機関と連携して、事業として実施する。例えば、年長児を対象とした①初期消火②防災紙芝居③非常食の試食など。

ケース2

保育所・幼稚園が独自で防災訓練を実施するにあたり、非常食等を提供して、保育士から幼児に「防災教育」を実施して

防災教育の効果

①将来、社会の担い手である幼児に防災啓発が実施できる。

②防災啓発の実績が整えば、今後、地域社会に展開が期待できる。

③保育士を中心に防災教育を実施することにより、保育所での防災教育の継続性が大いに期待できる。

(事務局)

多子軽減に関する要望書

平成19年6月14日に厚生労働省保育課(以下、厚労省という。)と文部科学省幼児教育課(以下、文科省という。)に対して、「多子軽減に関する要望書」を大阪府保育協議会会長永野治男氏と日本保育協会大阪支部支部長土井加津人氏の連名にて提出しました。

認定こども園の整備に伴い、平成19年度の補助事業の中で「多子軽減」が拡充され、省庁の垣根を超え、厚労省と文科省の間で幼稚園に通っていても、保育所に通っていても「多子軽減」の対象とすることとなりました。幼稚園に関しては、幼稚園から小学2年生までの5年間において「多子軽減」が認められました。こうした中で、障害児施設の通所施設に通う児童が「多子軽減」の対象から外れていました。平成19年5月25日の保育部会の総会で講演いただいた障本英俊氏に伺うと、障害児施設が障害者自立支援法になったため出来ないという事でした。厚労省で直接話を伺ったところ、障害児施設は、保

険の扱いであり運営費という税金の扱いであるということでした。

これによって、根本となる財源が違うことがわかります。世帯単位による限度額が、高額医療費の選択が出来る保険と一人当たりの単価設定になっている運営費に分かれ、壁ができてしまったことです。これが、この度の障害者自立支援法の施行による、制度

の歪みだと思えます。また、特別支援学校(前、養護学校)にある幼稚園という幼稚園部門ですが、これも今回の「多子軽減」から外れています。文科省は、「幼稚園は、幼稚園では無く、特別支援学校である」という見解です。同じ子どもであるのに、通うだけで「多子軽減」の対

象になったり、ならなかったりという現状があります。

このような制度の歪みを是正してもらうために、大阪府健康福祉部子育て支援課と相談して、表記のような「多子軽減に関する要望書」を提出。また、同時に大阪府知事からも同じ内容の「多子軽減に関する要望書」が出されました。前述の6月

14日に大阪府子育て支援課長の小原氏と総括主査の藤城氏、教育委員会より新坊氏と長谷川氏、そして団体から私、森田の5名でお願いしてまいりました。

近々では、保育所の整備費補助金や一時保育と特定保育等の陳情を行い、認めていただいています。今回のように保育所の直接の利益に繋がらないか

も知れませんが、利用者だけではなく、全ての子どもたちに関して改善されるべき問題があれば、訴え続けたいと思います。このような事項以外にも、我々の気付かない疑問については、一つでも解決できるように努めたいと考えています。

(保育部会副部長
森田信司)

平成19年 6月14日

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課長 様
厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 保育課長 様

大阪府保育協議会
会長 永野 治男
日本保育協会 大阪支部
支部長 土井 加津人

保護者の負担軽減(多子軽減)に関する要望

日頃より、保育事業や諸般の活動等を通じ、子どもの育ちを保障し、よりよい発達を支援しております当協議会に対し、多大なる御支援並びに御配慮を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

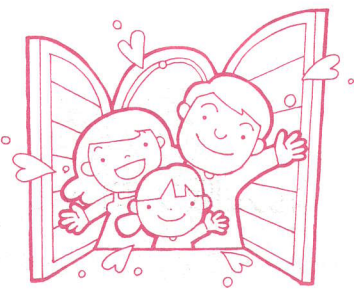
さて、第二次ベビーブーム以降続いております少子化の傾向は、国が率先して行ってきた「エンゼルプラン」から「子ども・子育て応援プラン」に至るまで、様々な少子化対策を幅広く展開しているにも関わらず、とどまる様相を示しておりません。少子化の要因は様々な原因があると考えられますが、若年世代にとっては、「育児不安」、「家庭と仕事の両立の困難さ」や「地域の子育て環境の不整備」といったもののほかに「経済的負担」も顕著な要因となっております。特に、複数の子どもを育てる場合は、その負担も重くのしかかってきます。

そこで、平成19年度において、厚生労働省と文部科学省間で制度の垣根を越えて、多子世帯への負担軽減策が打ち出され、「保育所」、「幼稚園」及び「認定子ども園」を利用する幼児について、費用負担の軽減を行うこととされたことは、非常に喜ばしいことであります。しかしながら、一方では、この負担軽減を受けられない世帯も存在し、「子育て不安」や「経済的負担」等を抱えながら、一生懸命、子育てに励んでおられます。子育て支援の観点から、また、少子化対策の一環として次の点を要望致します。

- ① 障害児施設の利用児も、算定対象に加える。
- ② 特別支援学校の幼稚部の通学児も、算定対象に加える。

まど

14



保育の

「河内ブロック」

し、園庭開放や、保育所体験、行事参加など、年々在宅支援のメニューを増やしてきました。今では、第1、第3木曜日、第2

親子教室では、近所に同年齢の子どもがいないため、友達と触れ合う機会がないという声や公園は、ごみが落ちていたり、不審者がいるので安心で

地域に根ざした保育園を目指して

ゆめの子保育園

もいます。



きないという声が多く聞かれます。また、幼稚園の準備のため、少しでも、子どもに保育の場を経験させたいという保護者もいます。

子どもに対して関心はあるものの、情報ばかりが先行し、対応のわからない保護者がみられます。そのため、保育園の中だけでなく、公園や会館などに出張し、いろいろなニーズをくみ上げ、次年



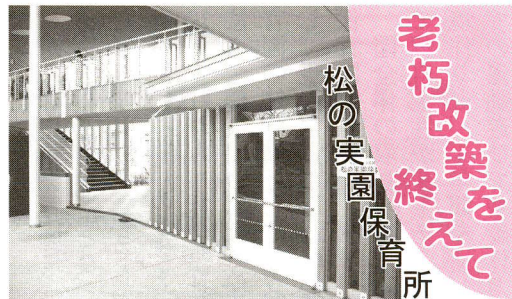
子どもに優しい家庭的な保育園というモットーで、今年で開園10年になりました。当初より、地域に根ざした保育園を目指

金曜日に親子教室や、第2、第4土曜日に出張保育、ランチ会を実施しています。年齢別には、1・2歳児の親子が多く、幼稚園に入園していない3歳児

ランチ会は、遊び食べや、好き嫌い等食に対する悩みが多い保護者の要望で、開催するようになりました。それに伴い、給食やおやつレシピに写真をいれ、園舎のカウンターにおいたところ、あつという間になくなってしまいました。

度の保育サービスに組み込んでいます。これからも福祉の観点から、よりよい保育サービスを展開し、社会に貢献できるよう努力したいと思っています。(Y・K)

当園は、中核市堺市にある児童養護施設・保育所・障害児(者)施設・



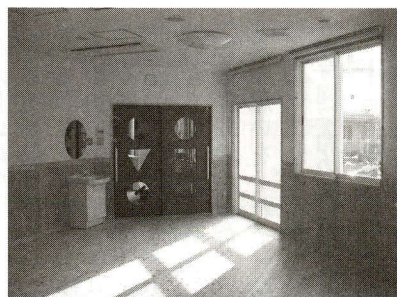
作業所の4施設からなる法人施設です。保育所は、児童養護施設の開設から10年後の昭和45年12月に定員120名でスタートし、38年目を迎えておりました。この間、地域の乳幼児とともに沢山の素晴らしい思い出を残してきた旧園舎も、様々な箇所が老朽化も進み、全面改築を決意せざるを得なくなりました。ところが先の児童養護施設の改築を4年前に行っており、法人としても資金不足気味であり、その他様々なことを考えると不安な毎日を送って

おりました。堺市を始め府社協にも相談しながらも地域福祉のニーズを調査し、新園舎改築の際には「定員拡大」、「延長保育時間の延長」という2点を打ち出



し、その結果4年後にようやく全面改築の認定が下りました。合わせて府社協より資金借入れ、堺市及び国庫補助、そして福祉医療機構からの借入れも決定し、平成18年8月着工、平成19年3月に無事完成を迎えました。敷地には恵まれており、したので仮園舎も不要であり、建築の進行具合や完成していく様子が旧園舎2階から園児たちと常時確認でき、楽しみに待つことができました。何より一日も保育活動を休むことなく行えたことは、地域の方々や保護者にも

大変喜ばれました。完成した新園舎は、芸術的ともいえる斬新なデザインで、木の匂いや肌触りはもちろん、風の通り道や光の取り入れ方なども計算されており、自然に人々に優しい設計になっています。長い保育時間を過ごす園児にも安心して過ごすことができます。さらに、保護者のための子育て情報交換コーナーの設置、その他地域の方々のサークル活動に開放するスペースの確保などを行ったことで、地元でも好評を得ています。これから、



乳幼児とともに新たな思い出と歴史を刻みながら、そして地域の皆さんに可愛がられる保育所運営と新園舎の有効活用に努力したいと思っています。

ブロックだより



6月7日(木) 大阪府社会福祉会館において平成19年度北大阪ブロック会総会並びに研修会・懇親会が会員数107園中

保育園をたずねて

352

堺市 がんばる白鷺保育園

がんばる白鷺保育園は、18年度政令指定都市となった堺市の中で、最も子どもが多い地域にあります。10年4月から、社会福祉法人金岡会がわんぱく保育園の姉妹園として設立し、現在定員120名の保育園です。

園全体の取り組みとして、自主性が芽生える環境作りと、1年間を通しての運動遊びで基礎体力



竹馬あそび

3歳以上は、異年齢グループの中で過ごす時間を多く持ち、思いやりや、人間関係

を養うなど、現代っ子が抱える問題に配慮しています。ループのなかで過ごす時間を多く持ち、思いやりや、人間関係の基礎を学習。0〜2歳では、保育士の愛情一杯のスキンシップと言葉掛けの中で生活と遊びが保障され、一人ひとりの発達や課題・援助を確認しながら保育されています。さらに園内だけでなく地域への育児支援や、老人会の施設利用など、開園10年を経て地域に根ざす園として繋がりが深まっています。

きな期待を込めて花束が贈呈されました。(第二聖心保育園 H・N)

堺ブロックでは6月4日から8日間の日程で、北欧保育研修を行いました。澤田芳治団長(竹宝保育園)をはじめ20名が参加し、スウェーデン、フィンランドの3施設を訪問。保育事情と教育文化を学びました。ストックホルム郊外に位置するウートシクテン保育園は、野外活動を中心に日々の保育を展開し、よほどの悪天候でない限りは外で一日を過ごします。手作りの遊具に自然の傾斜を活かした園庭があります。岩もむき出しのままの起伏ある庭に参加者からは怪我を心配する質問も出ましたが、逆に怪我は平坦な園庭より少ないと園長は話します。



カーテンでしぎられたままごとコーナー

発行所
大阪府社会福祉協議会
保育部
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762-9001
発行人 男 勲
編集人 永野 武
宮

(保育園平和の園 N・S)

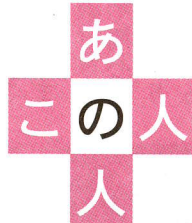
堺ブロック

北欧研修 ドラーケン保育園にて



東大阪市私立保育会のニューリーダーは、木の実保育園、唐住康雄園長です。とても個性的な風貌なので御存知の方も多知の方が多いはず。彼について「すごいな」と思うところは沢山あり、中でも一番感心しているのは、仕事と遊びを融合させてしまうところです。

「楽しみながら仕事



をする」なんて素敵なことでしょう。サザンオールスターズのBGMで竹馬を教える、彼のライフワーク「スノーボード」を子どもと一緒に楽しむなど。その他好奇心を刺激するものについては、とても熱心。「よく遊び、よく遊ぶ」を自然で行っているほんとに面白い園長さんです。(白鳩保育園 H・K)

部屋、絵画、水遊び、着せ替え、読み聞かせ等、子どもたちがやりたい事を自由に選べるようになっています。個人の記録を大切に、廊下を使い上手に展示していたのも印象的でした。いずれの施設も共通して感じたことは、園児数が30人程度であり、一人ひとりの個性と自主性が尊重されていること。また、夏は白夜で日が長いのですが、冬は逆に日照時間が短いこともあって、インテリアや光の使い方が工夫されている事などでした。制度も違うので全く同じとはいきませんが、明日からの保育に活かしたい、そんな思いをそれぞれ胸に帰国しました。